

THE HOGAKU RONSHU

THE LAW REVIEW
OF
KANSAI UNIVERSITY

JANUARY 2021

VOLUME LXX

NUMBER 5

Articles

- Legal Pluralism and Neomedievalism Yasuhisa ICHIHARA (1)
- Die Rechtslagen und Probleme der
Organtransplantation in Japan Keiichi YAMANAKA (56)
—aus der Sicht des Rechtsvergleiches mit dem deutschen Recht— (2)
- Das Feststellungsverfahren der
titulierten Konkursforderungen (3) Takashi KURITA (142)
- Issues Relating to Reservations Made upon
Re-Accession to a Treaty Tetsuya NAKANO (158)
- Study on Matters to Be Explained for the Investigation of
Serious Cases of Bullying : Aiming to Comply with
“The Guidelines Concerning Investigation of
Serious Cases of Bullying” Kenji NAGATA (181)
- Various Activities and Outcomes of the Ainu People towards
the Ainu Policy Promotion Act through the Globalization—Prime
Minister Nakasone’s Remark ‘Japan as homogenous State’ and
Activity of Ainu Association of Hokkaido at the UN Working
Group of Indigenous Populations in 1987 (1) Takeshi TSUNODA (245)
- L’objet vindicatif ou répressif de l’action civile en droit français Masanori KONNO (273)
- Die Zulässigkeit des unbestimmten Klageantrag auf
Vornahme einer Handlung Megumi IKEDA (296)
- On Early Development of Forensic Medicine of Qin Dynasty Haruhito SADATE (1)

Case Notes

- The Case in Which the Act on the Promotion of Measures to
Prevent Bullying and the Local Basic Policy to Prevent Bullying
and Other Policy Were Used as the Basis for Judgment of
the Seriousness of Improper Conducts Committed by a Teacher
Who Worked at a Public School (Supreme Court, July 6, 2020) Kenji NAGATA (338)
- Le Licencié Exclusif du Droit à l’image Peut-il
Demander des Dommages-intérêts ? Rika KUMAMOTO (362)

Translation

- Hegels Erben in der Strafrechtswissenschaft :
Hegelianer im 19. Jahrhundert (4)
Günther Jakobs, Unrecht, Zurechnung, Notstand. Mitsuru IJIMA (377)
Bemerkungen zur Lehre Hugo Hälschners Hirokazu KAWAGUCHI

Material

- Formal Titles of Acts in Japan from 1886 to 1947 Naokazu YOKOTA (398)

THE LAW SOCIETY OF KANSAI UNIVERSITY
OSAKA, JAPAN

關西大學

法學論集

第70巻 第5号

令和3年1月

論 説

- 法多元主義と「新しい中世」..... 市原靖久 (1)
- わが国における臓器移植をめぐる
法規制の現状と問題点..... 山中敬一 (56)
——ドイツ法との比較の観点から—— (2)
- 有名義破産債権の確定手続 (3) 栗田隆 (142)
- 条約への再加入時に付された留保の効力 (1) 中野徹也 (158)
- いじめの重大事態の調査のための
説明事項の説明に関する考察..... 永田憲史 (181)
——「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」の
遵守を目指して——
- グローバル化を手がかりとしたアイヌ政策推進にむけた
国内外での活動と成果 (I) 角田猛之 (245)
——中曽根・単一民族国家発言と1987年の国連先住民作業部会
での北海道ウタリ協会の活動 (1)——
- フランス法における私訴権の意義..... 今野正規 (273)
- 抽象的作為請求としてなされた放射性物質の
除去請求における訴えの適法性..... 池田愛 (296)
- 秦朝の法医学の先進性について..... 佐立治人 (I)
——雲夢睡虎地秦墓竹簡『封診式』「経死」節の訳注

判例研究

- 公立学校の教員の非違行為の重大性の判断に
当たって、いじめ防止対策推進法及び地方
いじめ防止基本方針等を判断資料とした事例..... 永田憲史 (338)
(最判令2年7月6日裁判所ウェブサイト登載)
- パブリシティ権の独占的利用許諾を
受けた者による損害賠償請求..... 隈元利佳 (362)
——大阪高判平成29・11・16判時2409号99頁
(Ritmix 事件)——

翻 訳

- 刑法学におけるヘーゲルの遺産：
19世紀におけるヘーゲル学派 (4) 飯島暢一 (377)
川口浩一

資 料

- 昭和22年までに制定された法律の法令名について..... 横田直和 (398)
——題名と件名を区別して——

關西大學法學會

關西大學
法學論集第七十卷
第五号令和三年
一月關西大學
法學會

執筆者紹介

市原靖久	関西大学教授
山中敬一	関西大学名誉教授
栗田隆	関西大学名誉教授
佐立治人	関西大学教授
中野徹也	関西大学教授
永田憲史	関西大学教授
角田猛之	関西大学教授
今野正規	関西大学教授
池田愛	関西大学准教授
隈元利佳	関西大学助教
飯島暢	関西大学教授
川口浩一	明治大学教授
横田直和	関西大学教授

関西大学法学会役員（五十音順）

会長 高作正博	柄谷利恵子 川合昌幸 川口美貴(庶務) 河村厚 木下智史 木原淳(編集) 金玲 権南希 葛原力三 久保宏之 隈元利佳 小泉良幸(監査) 後藤元伸(編集) 小西秀樹 近藤剛史 今野正規(編集) 酒井一 坂本治也 佐川友佳子 笹本幸祐 佐立治人 佐伯和也 下村正明	白須真理子 高作正博 多治川卓郎(会計) 辰巳直彦 田中謙 津田由美子 角田猛之 寺川永穂(庶務) 寺島俊穂(庶務) 中島洋樹 永田憲史 中野徹也 中村哲 中村知里(会計) 西平等 西澤希久男 西村枝美(会計) 西山真司 原弘明 馬場圭太 早川徹 廣川嘉裕 福島豪(会計) 藤原稔弘	松尾知子 松代剛枝(庶務) 水野吉章 村上幸隆(編集) 村田大樹(庶務) 村田尚紀 元氏成保(庶務) 森宏司 森田崇雄(会計) 森本哲郎 安武真隆 大和正史 山名京子 山名美加(編集) 山中友理(会計) 山本慶介(編集) 由喜門真治 横田直和 吉沢晃(編集) 吉田栄司 吉田直弘 吉田徳夫 若月剛史
------------	--	--	---

前号目次（第70巻第4号）

論 説	
特定物概念・不特定物(種類物)概念と「特定物ドグマ」の理論について……………	高森八四郎
——債権法改正を視野に入れて——	米村和康
わが国における臓器移植をめぐる法規制の現状と問題点……………	山中敬一
——ドイツ法との比較の観点から——(1)	
手続開始後における破産債権の変動をどのように処理すべきか(4・完)……………	栗田隆
——破産者の共同義務者の弁済による破産債権の権利変動を中心にして——	
家庭関係事件の裁判の承認及び執行をめぐる欧州連合(EU)の新たな試み……………	春日偉知郎
——ブリュッセルIIa規則の全面改正と1980年ハーグ条約(子の返還手続)への対応——	
いじめの重大事態の調査組織設置に関する考察……………	永田憲史
——公平性及び中立性並びに専門性を有する調査組織を目指して——	
法哲学者・恒藤恭の憲法論……………	角田猛之
——恒藤恭『憲法問題』の復刊をめぐって——	
取締役報酬に関する会社法下の裁判例の概観……………	原弘明
——データベース収録裁判例を素材として——	
竹下法哲学について……………	木原淳
——法の効力根拠論、法の道徳性を中心に——	
韓国商法第816条「複合運送人の責任」規定における損害発生区間の認定……………	金玲
——韓国最高裁2019年7月10日判決を手がかりに——	
模擬法廷弁論における登場人物の造形とその動機の設定について(1)……………	栗辻悠
「公正なM&Aの在り方に関する指針」についての検討(1)……………	伊藤吉洋
肖像商業利用における契約法上の規律……………	隈元利佳
——フランス法の検討による序論的考察——	
翻 訳	
「改正ブリュッセルIIa規則(2019年6月25日)」全訳……………	春日偉知郎
刑法学におけるヘーゲルの遺産： 19世紀におけるヘーゲル学派(3)……………	飯島暢一 川口浩哲
資 料	
呉訥撰・若山拯訓訳『祥刑要覧』の訳注(八)……………	佐立治人
書 評	
松本礼二著『知識人の時代と丸山眞男：比較20世紀思想史の試み』……………	土倉莞爾
(岩波書店、2019年5月23日)	

関西大学法学会規則

- 第1条 本会は、関西大学法学会と称する。
- 第2条 本会は、法学の研究を促進し、かつ研究の成果を発表することを目的とする。
- 第3条 本会は、次の事業を行う。
- 1 機関誌「関西大学法学論集」及び「関西大学法学会誌」の発行。
 - 2 その他本会の目的を達成するために必要な事項。
- 第4条 本会は、大阪府吹田市山手町3-3-35に置く。
- 第5条 本会は、次の者をもって会員とする。
- 1 法学部及び大学院法務研究科（以下法科大学院と称す）の教授、准教授、助教、特別契約教授。
 - 2 政策創造学部の教授、准教授、助教、特別契約教授であって入会した者。
 - 3 法学部、大学院法学研究科、法科大学院、政策創造学部またはガバナンス研究科の非常勤講師であって入会した者。
 - 4 法学部学生、大学院法学研究科学生及び法科大学院学生。
 - 5 政策創造学部の学生であって入会した者。
 - 6 法学部、政策創造学部、大学院法学研究科及び法科大学院の卒業生であって入会した者。
 - 7 その他評議員会の承認を得た者。
- 第6条 次の者を本会の名誉会員とする。
- 1 法学部又は法科大学院に在籍した名誉教授。ただし、特別契約教授として在職中の者は除く。
 - 2 特に評議員会の承認を得た者。
- 第7条 本会に次の役員を置く。
- 1 会長 法学部長をもって充てる。
 - 2 評議員 教授、准教授、助教及び特別契約教授をもって充てる。
 - 3 編集・庶務・会計各委員 評議員の中から評議員会において委嘱する。その任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第8条 第5条第1号及び2号の会員は会費年額12,000円を、同条第3号から7号までの会員は会費年額4,500円を納めることを要する。
- 第8条の2 会計年度は、毎年4月1日から3月31日までとする。
- 第9条 会員及び名誉会員は、機関誌「関西大学法学論集」及び「関西大学法学会誌」の配布を受ける。
- 第10条 この規則の改正は、評議員会の決議による。
- 付則 この改正規則は、2019年7月10日から施行する。

2021年1月20日 印刷 関西大学 第70巻
2021年1月27日 発行 法学論集 第5号

編集兼 関西大学法学会
発行人 振替 00910-4-66882

印刷所 (株)富山房インターナショナル
東京都文京区千石2-25-11

発行所 関西大学法学会
大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
関西大学法学部内

